【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成23年4月7日(2011.4.7)

【公表番号】特表2008-532730(P2008-532730A)
【公表日】平成20年8月21日(2008.8.21)
【年通号数】公開・登録公報2008-033
【出願番号】特願2008-503077(P2008-503077)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｆ　2/44　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｆ　2/44

【誤訳訂正書】
【提出日】平成23年2月18日(2011.2.18)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】特許請求の範囲
【訂正対象項目名】全文
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
棘突起間に挿入されることに適している棘間インプラントであって、
スペーサと、
第1形態を有する伸延ガイドとを備え、
前記伸延ガイドが、第2形態に配置されることが可能であり、
前記伸延ガイドが前記第2形態に配置される場合、前記伸延ガイドは一のウィングになり、前記棘間インプラントが棘突起間に配置されるとき、その一のウィングが前記棘間インプラントの動きを制限する、棘間インプラント。
【請求項２】
前記伸延ガイドおよび前記スペーサの内の一方と回転可能に関連づけられた第1部分と、
前記第1部分からのびる第1突起と、
前記伸延ガイドおよび前記スペーサの内の一方と回転可能に関連づけられた第2部分と、
前記第2部分からのびる第2突起とをさらに備え、
前記第1突起および前記第2突起に力を加えることにより、前記伸延ガイドが第2形態に配置されて、前記第1部分および前記第2部分が互いに遠ざかるように回転する、請求項１の棘間インプラント。
【請求項３】
前記スペーサが空洞を含み、かつ、
前記棘間インプラントが、
前記空洞内に押し込まれることに適している挿入体をさらに含み、
前記空洞内に押し込まれた前記挿入体が前記第1突起および前記第2突起に力を加えることにより、前記伸延ガイドが、前記第1形態から前記第2形態へと配置される、請求項２に記載の棘間インプラント。
【請求項４】
前記伸延ガイドは第1ウィングレットおよび第2ウィングレットを含み、
前記第2ウィングレットは、前記スペーサに回転可能に関連づけられ、
前記第1ウィングレットから遠ざかるように前記第2ウィングレットを回転させることに

よって、前記伸延ガイドが第2形態に配置される、請求項１に記載の棘間インプラント。
【請求項５】
前記一のウィングが、伸延先端と、伸延先端の後方において前記伸延ガイドに回転可能に装着される第1ウィングレットおよび第2ウィングレットとを含み、
前記第1ウィングレットおよび前記第2ウィングレットはそれぞれ、前記伸延先端に隣接する第1位置から前記伸延先端から離れた第2位置まで回転可能である、請求項１の棘間インプラント。
【請求項６】
他のウィングをさらに含み、
前記スペーサが、前記他のウィングと前記伸延ガイドとの間に配置される、請求項１乃至５の何れか１項に記載の棘間インプラント。
【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００３４
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００３４】
図9Aから9Cは、隣接棘突起2,4の間に配された、本発明によるインプラント700のさらに別の実施態様を示す。この実施態様では、上方および下方ウィングレット712,714は、伸延ガイド710の内部に配され、かつ、カム707と接続する軸を含むアクチュエーターの装置を作動することによって展開することが可能である。該配列要素において、軸は、嵌合可能なヘッド706を持つか、または、何か別の機構、例えば、ギアを含む。図9Aにおいて見て取れるように、インプラント700は、図3を参照しながら前述したように、隣接棘突起2,4の間に配される。隣接棘突起2,4の間に接続される棘間靭帯6を貫通および／または伸延するために、インプラント700の伸延ガイド710が用いられる。次に、インプラント700を棘突起2,4の間に押し込み、伸延ガイド710がさらに棘間靭帯6を伸延することが可能とされ、スペーサ720をその中に配することが可能なスペースが形成される。図示の実施態様では、スペーサ720は、インプラント700の第1ウィング730から延びる中心体の周囲に回転することが可能である。第1ウィング730は、インプラント700の、長軸725にそった挿入方向の動きを制限および／または阻止する。
【誤訳訂正３】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００３５
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００３５】
インプラント700が望み通りに配置されたならば、アクチュエーターの装置が作動されて、上方および下方ウィングレット712,714を展開し、図9Cに示すような第2ウィング760を形成する。第2ウィング760は、長軸725にそった挿入とは反対の方向の動きを制限および／または阻止する。第2ウィング760が展開されると、隣接棘突起2,4は、少なくとも部分的にウィング730,760の間に配されるので、インプラント700が、隣接棘突起2,4間のスペースから外れるという不都合から免れさせる。図9Cに示すように、第1ウィング730と第2ウィング760は、互いに十分に遠く隔てられているので、隣接棘突起2,4は、互いに対して僅かながら相対的に移動することが可能なので（例えば、側方に、捻り運動の際など）、患者には、さらに大きな運動の屈曲性が許される。
【誤訳訂正４】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００３６
【訂正方法】変更
【訂正の内容】

【００３６】
図9Bおよび9Cは、図9Aに示すインプラント700の、後ろから見た部分的断面図である。ある実施態様では、展開可能なウィングレット712,714は、軸707およびカム716を含むアクチュエーターの装置を用いて、伸延ガイド710から延長させることが可能である。カム716は回転されると、ウィングレット712,714を、伸延ガイド710から外方に回転させる。図示のように、ウィングレット712,714は、伸延ガイド710の空洞の中に少なくとも部分的に配置される。
【誤訳訂正５】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００３７
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００３７】
図10Aから10Eは、隣接棘突起2,4の間に配された、本発明によるインプラント800のさらに別の実施態様を示す。この実施態様では、上方および下方ウィングレット812,814は、伸延ガイド810の中に配され、嵌合ヘッド806を有するねじ807を含むアクチュエーターの装置を作動することによって展開することが可能である。図10Aで見て取れるように、インプラント800は、図3を参照しながら前述したように、隣接棘突起2,4の間に配される。
隣接棘突起2,4の間に接続される棘間靭帯6を貫通および／または伸延するために、インプラント800の伸延ガイド810が用いられる。次に、インプラント800を棘突起2,4の間に押し込み、伸延ガイド810がさらに棘間靭帯6を伸延することが可能とされ、スペーサ820をその中に配することが可能なスペースが形成される。図示の実施態様では、スペーサ820は、インプラント800の第1ウィング830から延びる中心体の周囲に回転することが可能である。第1ウィング230は、インプラント800の、長軸825にそった挿入方向の動きを制限および／または阻止する。
【誤訳訂正６】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００３８
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００３８】
インプラント800が望み通りに配置されたならば、アクチュエーターの装置が作動されて、上方および下方ウィングレット812,814を展開し、図10Bに示すような第2ウィング860を形成する。第2ウィング860は、長軸825にそった挿入とは反対の方向の動きを制限および／または阻止する。第2ウィング860が展開されると、隣接棘突起2,4は、少なくとも部分的にウィング830,860の間に配されるので、インプラント800が、隣接棘突起2,4間のスペースから外れるという不都合から免れさせる。図9Bに示すように、第1ウィング830と第2ウィング860は、互いに十分に遠く隔てられているので、隣接棘突起2,4は、互いに対して僅かながら相対的に移動することが可能なので（例えば、側方に、捻り運動の際など）、患者には、さらに大きな運動の屈曲性が許される。
【誤訳訂正７】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００３９
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００３９】
図10Cおよび10Dは、図10Aおよび10Bに示すインプラント800の、部分的端面断面図である。ある実施態様では、展開可能ウィングレット812,814は、ねじ807およびねじ溝付きカラー816を含むアクチュエーターの装置を用いて伸延ガイド810から延長させることが可能である。ねじ溝付きカラー816は、ねじ807にそって捻じ込まれ、ウィングレット812,814

を伸延ガイド810から外方に向かって回転させる。図示のように、ウィングレット812,814は、伸延ガイド810の空洞の内部に少なくとも部分的に配置される。ウィングレット812,814は、上方ピボット点817および下方ピボット点819において、ねじ溝付きカラー816に回転可能に接続される。ピン813,815、またはその他の閉塞装置が、空洞の中に配され、収納、または未展開位置にあるウィングレット812,814の配置を妨げないように設置される。しかしながら、ねじ溝付きカラー816が、前後方向にねじ807にそって移動すると、ウィングレット812,814の内面がピン813,815に接触し、ウィングレット812,814が回転して、伸延ガイド810から遠ざけられる。要すれば、ウィングレット812,813は、ポスト813,815に対してばねで変位されていて、収納位置、および任意の展開位置において、ウィングレット812,814は、ポスト813,815に対して押し付けられるようになっていてもよい。

【誤訳訂正８】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００４１
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００４１】

図11Aおよび11Bは、別のアクチュエーターの装置を有するインプラント900のさらに別の実施態様を示す。この実施態様では、ウィングレット912,914の配置が逆転しており、そのため、ねじ溝付きカラー916をねじ螺合ヘッド806の方に押しやることによってウィングレット912,914は展開されるようになっている。図12Aおよび12Bは、別のアクチュエーターの装置を有するインプラント1000の、さらに別の実施態様を示す。この実施態様では、ウィングレット1012,1014は、二つのヒンジ部分を含み、各ウィングレット1012,1014は外方へ折り畳まれて、第2ウィング1060の一部を形成する。第2ウィング1060は、脊椎の軸にそって先ほどと同様に大きく突出することはない、すなわち、第2ウィング1060の脊椎にそう全長は、前述の実施態様よりも小さい。第2ウィングの高さが減少したことは、複数のインプラントが隣接運動セグメントに配置される場合に有利である。隣接インプラント同士の不都合な接触が阻止されるからである。

【誤訳訂正９】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００５２
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００５２】

伸延ガイドが切創から取り出されたならば、インプラントを、拡張された切り口に設置することが可能であり、インプラントの伸延ガイドは、拡張された開口を通じて押し込まれる（工程210）。インプラントは開口を通じてさらに押し込まれ、最終的にスペーサは、所期の通り、標的運動セグメントの隣接棘突起間に配置される（工程212）。スペーサは、負荷が棘突起表面により均一に分散されるように自由に回転される。要すれば任意に、インプラントは拡大開口を通じてさらに押し込まれ、最終的に、第1ウィングが隣接棘突起に接触し、それによって、挿入方向におけるそれ以上の移動を阻止する。インプラントが適正に設置されたならば、挿入点とは反対側の、隣接棘突起において、活性化ツールが切創の中に挿入される（工程214）。アクチュエーター・ツールは、アクチュエーターの装置と嵌合し、該アクチュエーターの装置を作動し、そのために上方ウィングレットおよび下方ウィングレットが、前述のように、展開して第2ウィングとなる（工程216）。残余のツールが切創から取り出され、切創は閉じられる（工程218）。挿入時、伸延先端は、組織を貫通し、または分離はするが、組織を切り離さないことが好ましい。